

(東部医療センター)

	発生年月	発生場所	事故の概要	再発防止策
1	2024. 4	談話室	パーキンソン病の患者を車椅子に移乗し家族とデイルームで面会してもらった。家族が帰宅後、患者が一人で立ち上がろうとして転倒し、鼻骨骨折他顔面挫創を負い、創部縫合他の治療を要した。	看護師が付き添えない場合の家族指導を徹底する。
2	2024. 5	病室	消化器手術後に病棟転棟となった。鎮静薬の影響が残っている状態で患者が一人で動こうとしてベッドサイドにずり落ち、大腿骨頸部骨折となり、人工骨頭手術を施行した。	ベッド上で過ごせるような環境整備や術後・転棟直後である患者への訪室回数が不十分であった。アセスメントを適切にし、安全な療養環境整備を行う。
3	2024. 5	病室	患者から転倒したとの訴えがあったが、疼痛軽度のため様子観察としていた。後日、CT検査で左大腿骨転子部骨折を指摘され、観血的手術を施行した。	せん妄リスクの高い患者に対しては、早期に行動把握センサーの設置を開始する。転倒したとの訴えがあれば、速やかに診察を依頼する。
4	2024. 7	手術室	腹腔鏡下手術にて、切断臓器・腫瘍が大きいため、細断して体外に搬出。術後の腹部エコーにて細断した一部が体内に遺残していることが判明し、再手術にて摘出した。	切断臓器・腫瘍が大きく、体外搬出に時間がかかる場合は、開腹手術に切り替えることも検討する。
5	2024. 8	病室	病室内の洗面所で髭剃りを終えた患者が椅子から立ち上がろうとして転倒し、左上腕骨骨棘骨折をきたし、保存的加療となった。	転倒リスクの高い患者に適した環境整備を行う。また、人員に余裕があり付き添いができる時間帯を選んで髭剃りを促す。
6	2025. 1	病室	誤嚥性肺炎で入院中の患者のモニターアラーム対応が遅れ、呼吸状態の悪化をきたした。喀痰吸引、酸素投与等の対応により呼吸状態は回復した。	モニター装着継続の必要性についてアセスメントを適切に行い、患者の状態に合わせたアラーム設定を行う。